

**ManpowerGroup
Employment
Outlook Survey
Japan**

**Q4
2018**



Japan Employment Outlook

日本における2018年第4四半期のマンパワーグループ雇用予測調査は、1,090社への聞き取り調査をもとに実施されました。

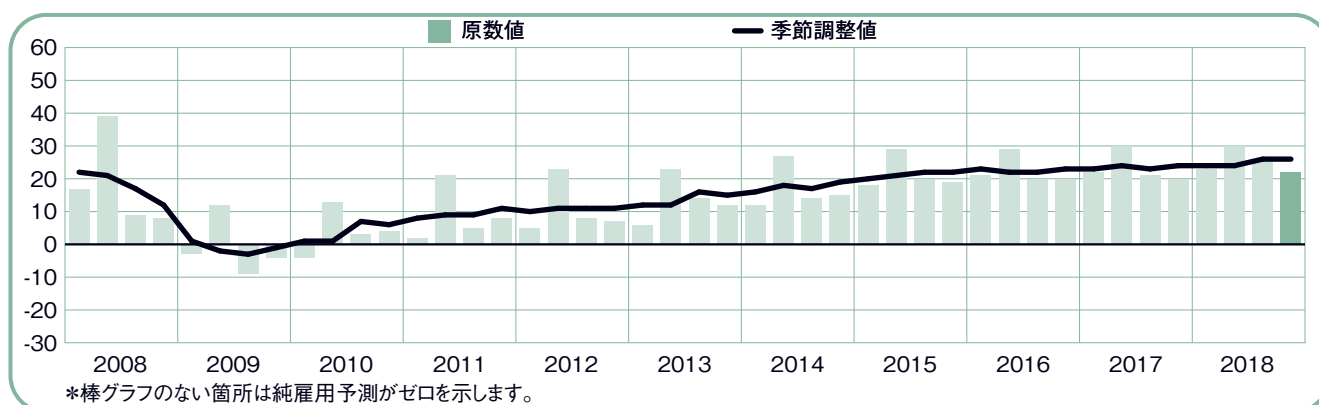
調査にあたっては、すべての回答者に、「2018年10月から12月の貴社または貴機関の雇用計画は、今期と比べてどのように変化しますか?」という質問をしています。

目次

日本の雇用予測	1
組織規模別比較	
地域別比較	
業種別比較	
世界の雇用予測	9
この調査について	11
マンパワーグループについて	12

日本の雇用予測

	増加	減少	変化なし	不明	原数値 (季節調整前の値)	季節調整値
	%	%	%	%	%	%
2018年 10月～12月	25	3	42	30	22	26
2018年 7月～9月	29	3	41	27	26	26
2018年 4月～6月	33	3	36	28	30	24
2018年 1月～3月	26	3	43	28	23	24
2017年 10月～12月	23	3	43	31	20	24



2018年第4四半期の日本の労働市場には堅調な雇用意欲が見込まれています。調査対象組織のうち、「増員する」と回答したのが25%、「減員する」が3%、「変化なし」が42%でした。この結果、純雇用予測は+22%となっています。

季節調整後の値では、純雇用予測は+26%と15年前に調査が開始されて以来最も好調な値となった前回と同等の値となっています。雇用の見通しは、前年同期比では2ポイント改善しています。

本調査では「純雇用予測」という用語を使用しています。これは、来四半期に「増員する」と回答した企業の割合(%)から、「減員する」と回答した企業の割合(%)を引いた値です。こうして算出した値が純雇用予測となります。

以降、本文書の解説に使用される数値は、特に注意書きがない限り、すべて季節調整後の値です。

※) 季節調整値について

新卒採用など、雇用活動の季節的な変化による影響を排するように調整を加えた純雇用予測。

組織規模別比較

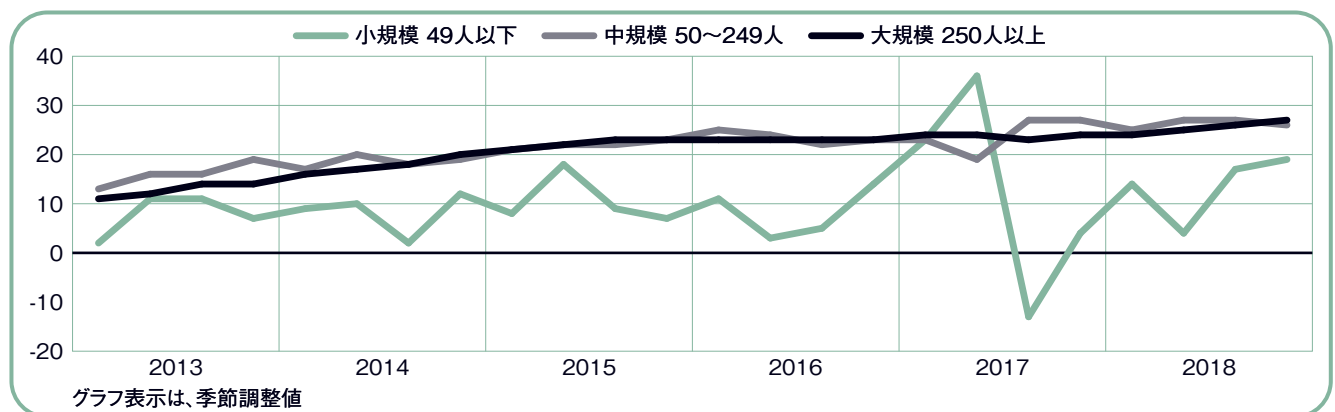
調査対象組織は、従業員数49人以下の小規模組織、従業員数50～249人の中規模組織、および従業員数250人以上の大規模組織のいずれかのカテゴリーに分類されます。

2018年第4四半期の純雇用予測は、3カテゴリーすべてで、雇用の増加が見込まれます。大規模組織は+27%と最も活発な雇用が予測されます。一方、中規模組織は+26%、小規模組織は+19%となっています。

純雇用予測は、前四半期比では小規模組織が2ポイント増と改善が見られます。一方、大規模組織と中規模組織はほぼ横ばいで推移しています。

前年同期比では、小規模組織が15ポイント増と顕著な改善を示しています。大規模組織は3ポイント増と改善する一方、中規模組織は比較的安定して推移しています。

組織規模		増加	減少	変化なし	不明	原数値 (季節調整前の値)	季節調整値
		%	%	%	%	%	%
小規模	49人以下	19	0	74	7	19	19
中規模	50～249人	24	2	52	22	22	26
大規模	250人以上	25	3	39	33	22	27

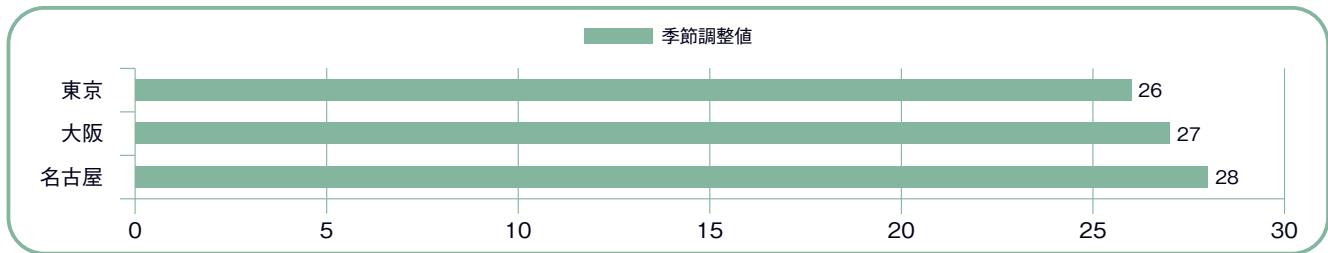


地域別比較

2018年第4四半期の純雇用予測は、3地域すべてで健全な雇用の増加が期待されます。最も好調な雇用市場が見込まれるのは名古屋で、純雇用予測は+28%です。その他の地域では、大阪が+27%、東京が+26%となっています。

純雇用予測は、前四半期比で名古屋が4ポイント減少していますが、大阪と東京は変化なしとなっています。

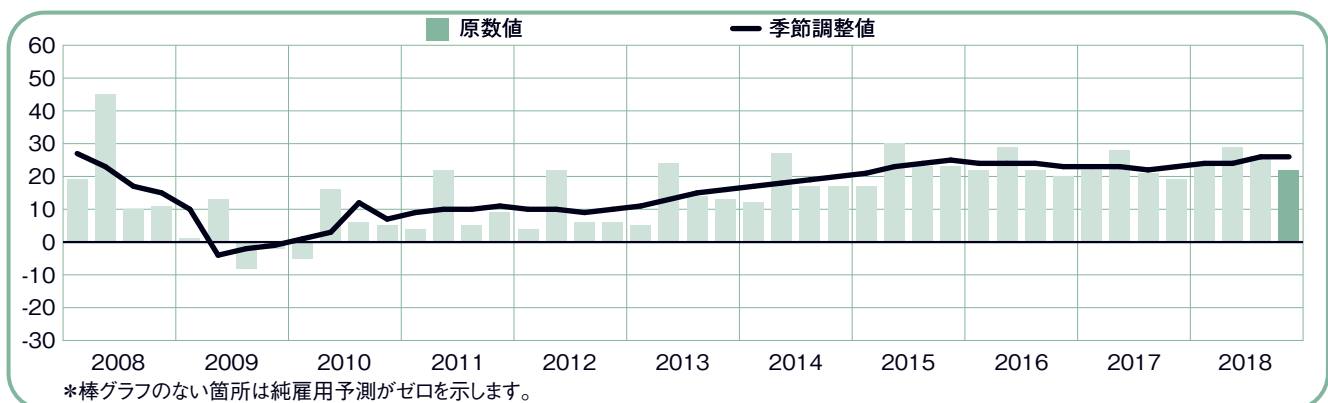
前年同期比では、大阪で4ポイント、東京で3ポイントの改善が見られます。名古屋の純雇用予測は変化なしとなっています。



26%

東京

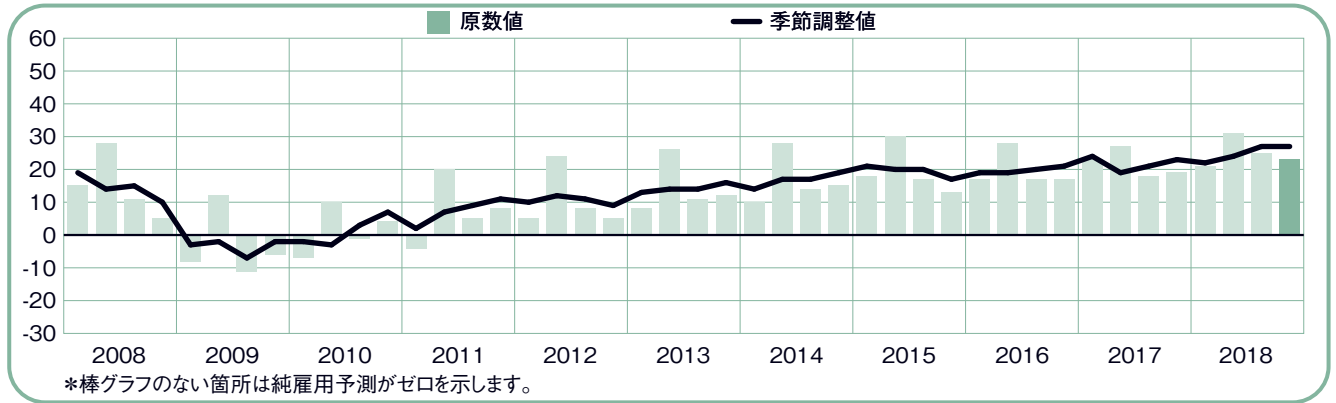
東京の来四半期の純雇用予測は2期連続でここ10年で最も好調な雇用市場が見込まれます。純雇用予測は+26%で、前四半期比では変化なし、前年同期と比べると3ポイント増となっています。



27%

大阪

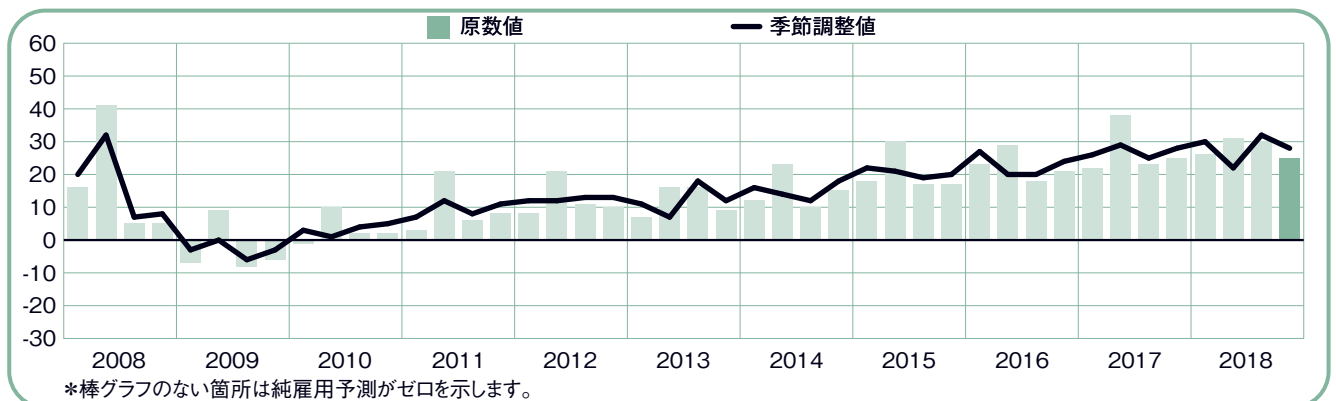
大阪の来四半期の純雇用予測は2期連続で+27%と引き続き堅調な雇用の増加が期待できます。前年同期比では4ポイント増となっています。



28%

名古屋

名古屋の来四半期の純雇用予測は28%となっており、活発な雇用市場が期待されます。純雇用予測は、前四半期比では4ポイント減少しますが、前年同期比では変化なしとなっています。



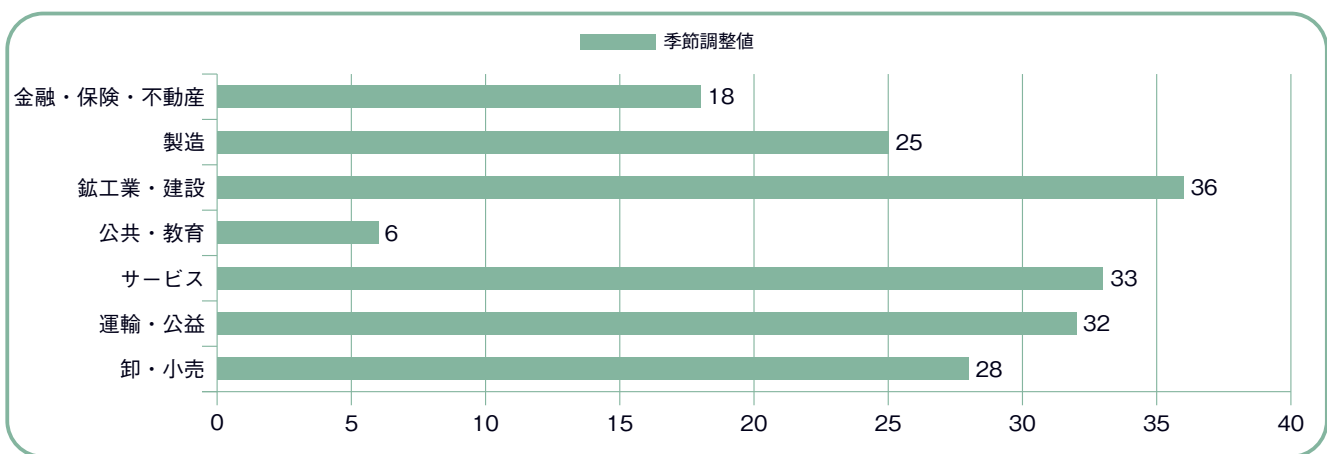
業種別比較

2018年第4四半期の純雇用予測は、7業種すべてでプラスとなっています。雇用意欲が最も高いのは「鉱工業・建設」の+36%です。また「サービス」と「運輸・公益」でも、それぞれ+33%と+32%と好調な雇用市場が期待されます。「卸・小売」は+28%、「製造」は+25%と健全な雇用の増加が見込まれます。一方、「公共・教育」は+6%と最も低い予測となっています。

純雇用予測は、前四半期比では「製造」で7ポイント

減少し、「公共・教育」と「サービス」ではいずれも2ポイント減少しています。一方、「鉱工業・建設」では2ポイント増加しています。

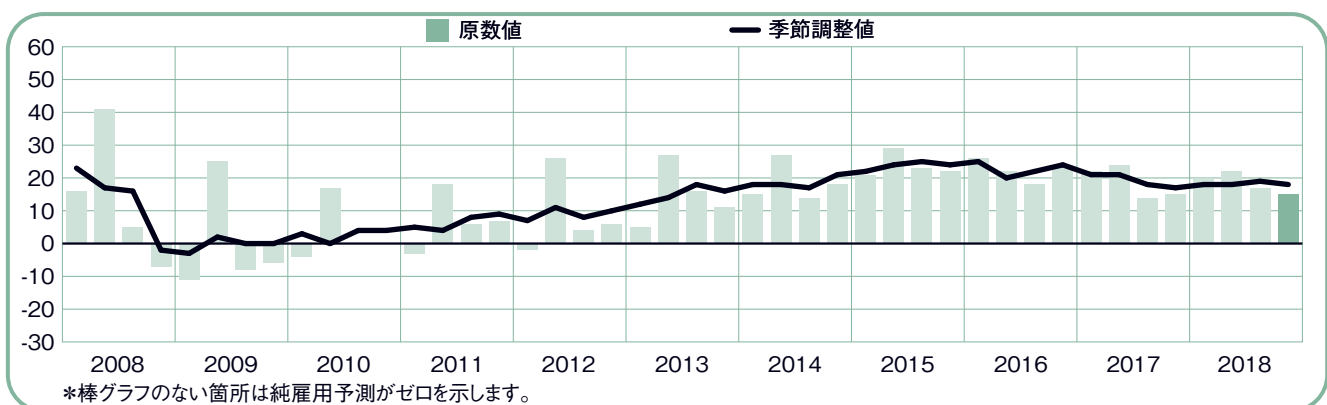
前年同期比では、「サービス」に7ポイントの改善が見られ、「卸・小売」でも5ポイント改善しています。その他、「鉱工業・建設」で3ポイント、「運輸・公益」でも2ポイントとそれぞれ改善が見られます。一方、「公共・教育」は3ポイント減となっています。



18%

金融・保険・不動産

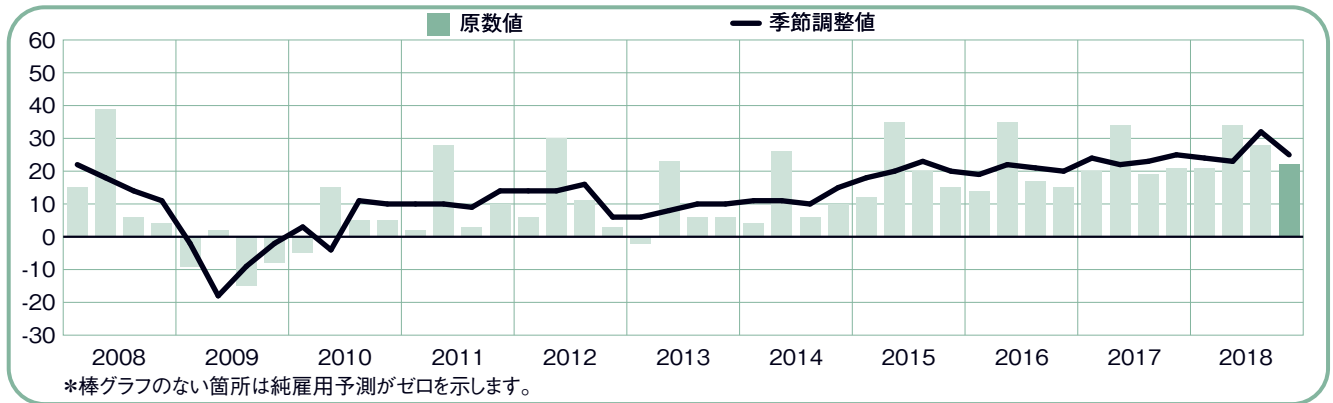
来四半期の純雇用予測は+18%となっており、安定した雇用活動が期待されます。純雇用予測は、前四半期比および前年同期比ともに比較的安定して推移しています。



25%

製造

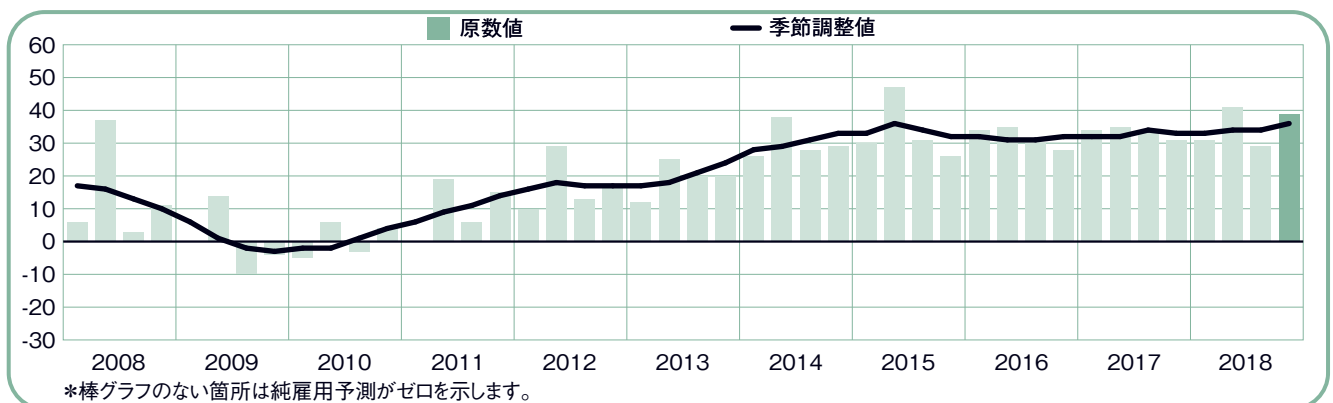
来四半期の純雇用予測は+25%と、健全な雇用活動が期待できます。純雇用予測は、前四半期比では7ポイント減少し、前年同期比では変化なしとなっています。



36%

鉱工業・建設

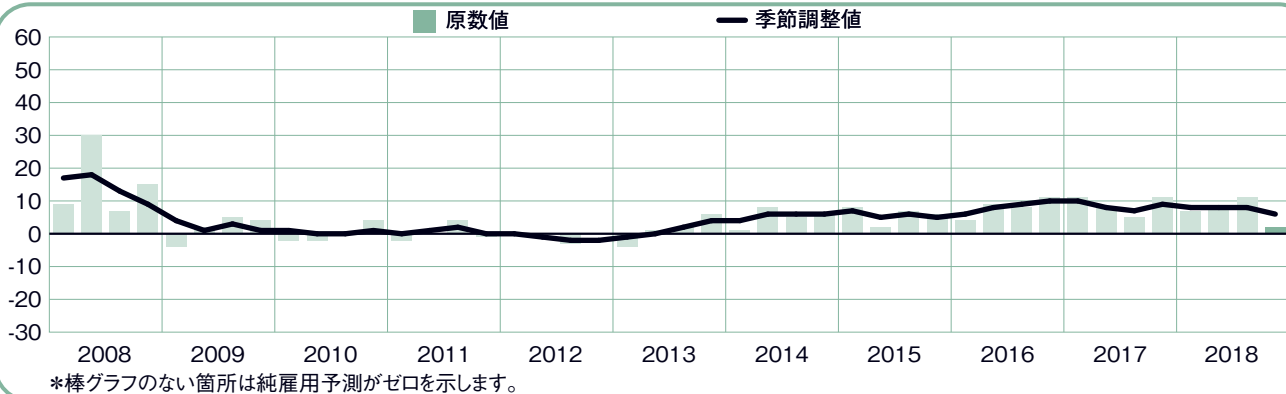
来四半期の純雇用予測は+36%と、15年前に調査を開始して以来最も好調な雇用予測であった2015年第2四半期の値に匹敵します。純雇用予測は、前四半期比では2ポイント増加し、前年同期比では3ポイント増加しています。



6%

公共・教育

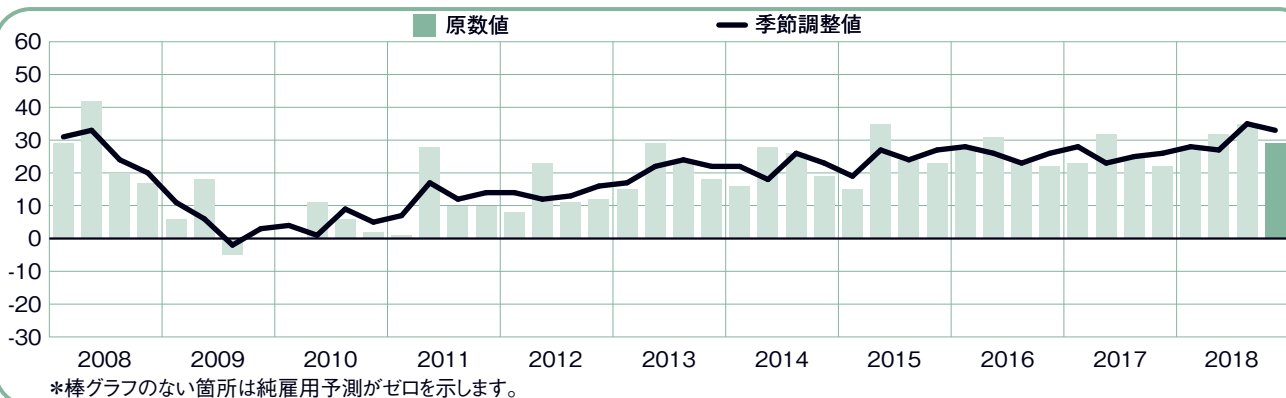
来四半期の純雇用予測は+6%となっており、ここ2年で最も低調な雇用意欲となっています。純雇用予測は、前四半期比では2ポイント減少し、前年同期比では3ポイント減少しています。



33%

サービス

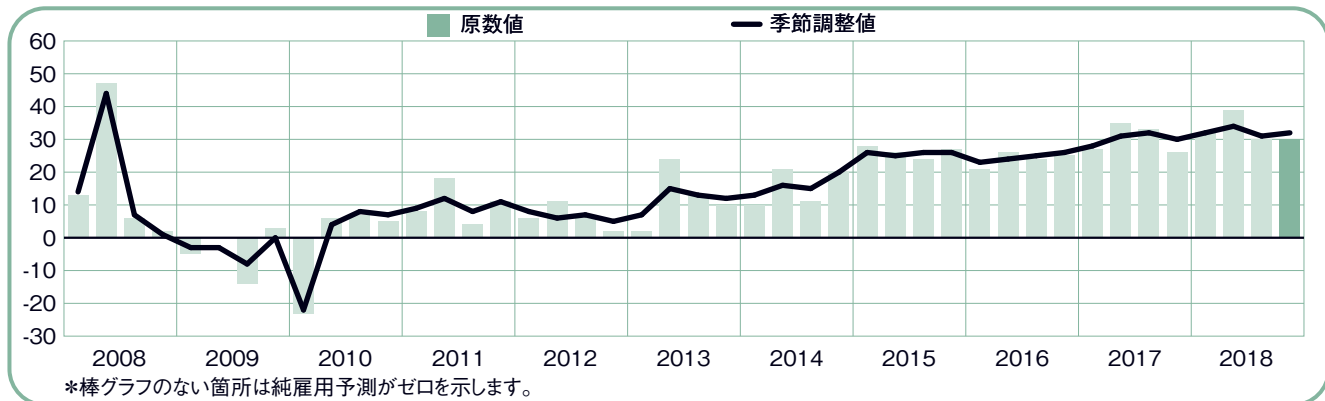
来四半期の純雇用予測は+33%と、活発な雇用が期待されます。純雇用予測は、前四半期比では2ポイント減少していますが、前年同期比では7ポイント増となっています。



32%

運輸・公益

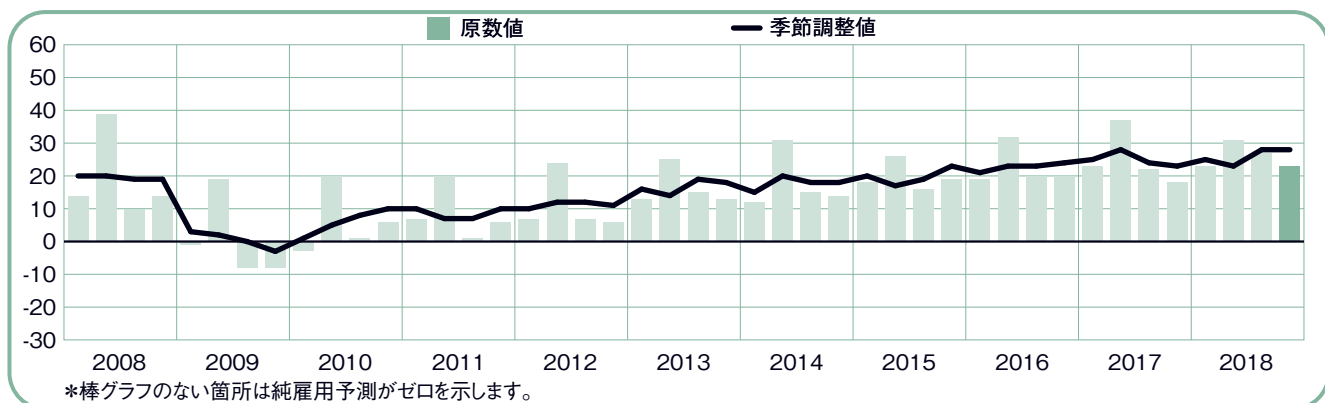
来四半期の純雇用予測は+32%で、引き続き活発な雇用情勢が見込まれます。純雇用予測は、前四半期比では比較的安定して推移し、前年同期比では2ポイント増となっています。



28%

卸・小売

来四半期の純雇用予測は2期連続で28%となっており、引き続き健全な雇用が期待されます。純雇用予測は、前年同期比では5ポイント増となっています。



世界の雇用予測

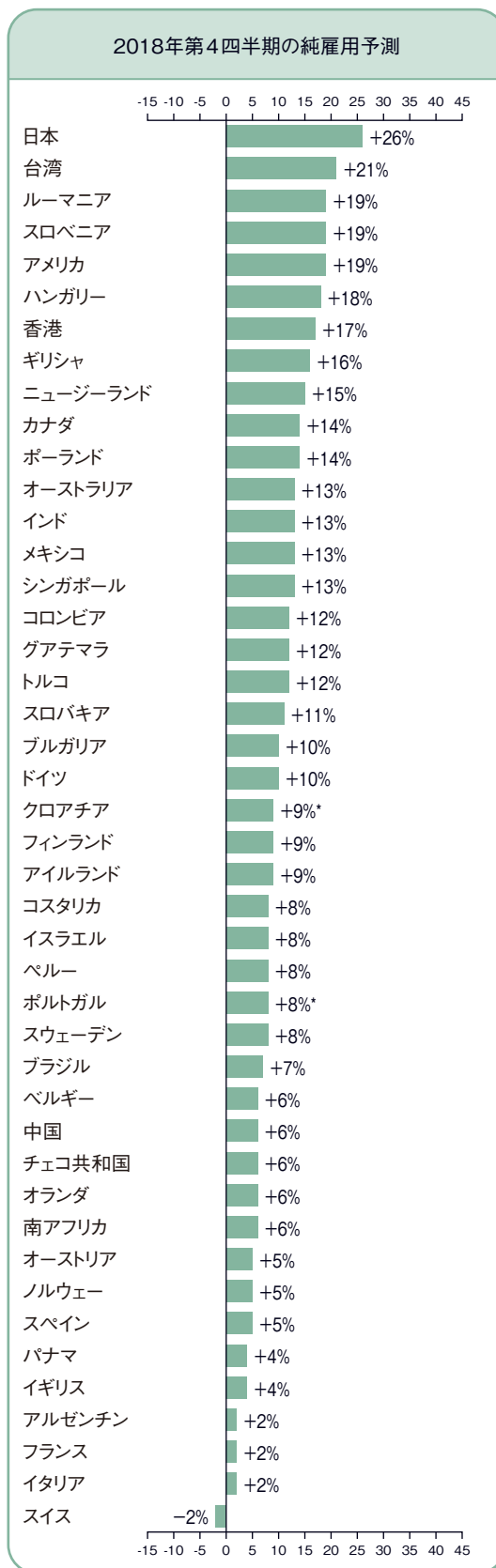
	2018年第4四半期	対前四半期比	対前年同期比
	%		
北米・中南米			
アルゼンチン	1(2)*	-3(-3)*	-6(-6)*
ブラジル	5(7)*	2(2)*	4(5)*
カナダ	10(14)*	-7(1)*	4(4)*
コロンビア	13(12)*	5(4)*	6(6)*
コスタリカ	6(8)*	-3(-4)*	-11(-11)*
グアテマラ	13(12)*	7(3)*	1(1)*
メキシコ	13(13)*	2(2)*	0(0)*
パナマ	4(4)*	2(1)*	-2(-2)*
ペルー	6(8)*	2(3)*	4(6)*
アメリカ	17(19)*	-4(1)*	2(2)*

アジア・太平洋			
日本	22(26)*	-4(0)*	2(2)*
オーストラリア	15(13)*	7(2)*	4(3)*
中国	7(6)*	-3(-4)*	-2(-2)*
香港	17(17)*	0(0)*	0(0)*
インド	14(13)*	-2(-3)*	-6(-7)*
ニュージーランド	16(15)*	9(6)*	4(4)*
シンガポール	13(13)*	1(1)*	2(2)*
台湾	20(21)*	-6(-2)*	-2(-2)*

ヨーロッパ・中東・アフリカ (EMEA)			
オーストリア	4(5)*	-5(-2)*	-4(-4)*
ベルギー	6(6)*	2(2)*	3(3)*
ブルガリア	7(10)*	-3(0)*	-2(-3)*
クロアチア	9	-17	-
チェコ共和国	6(6)*	0(2)*	5(5)*
フィンランド	5(9)*	-5(0)*	-1(1)*
フランス	2(2)*	-5(-3)*	-2(-2)*
ドイツ	11(10)*	1(1)*	4(4)*
ギリシャ	12(16)*	-8(1)*	3(2)*
ハンガリー	15(18)*	-6(-1)*	-1(-1)*
アイルランド	9(9)*	2(3)*	0(0)*
イスラエル	7(8)*	-6(-3)*	0(0)*
イタリア	1(2)*	1(3)*	1(0)*
オランダ	5(6)*	-1(0)*	-1(-1)*
ノルウェー	3(5)*	-7(-3)*	0(0)*
ポーランド	12(14)*	-3(1)*	5(5)*
ポルトガル	8	-7	5
ルーマニア	15(19)*	-4(4)*	7(6)*
スロバキア	9(11)*	-5(0)*	2(2)*
スロベニア	16(19)*	7(8)*	7(6)*
南アフリカ	6(6)*	2(0)*	1(1)*
スペイン	4(5)*	0(2)*	1(1)*
スウェーデン	7(8)*	2(4)*	4(4)*
スイス	-3(-2)*	-8(-6)*	-2(-2)*
トルコ	8(12)*	-9(-1)*	0(0)*
イギリス	4(4)*	0(0)*	-1(-1)*

*()内は季節調整値を示します。

季節調整値：新卒採用など、雇用活動の季節的な変化による影響を排するように調整を加えた純雇用予測。この値を算出するためには17四半期以上のデータが必要なことから、値のない国もあります。



*未調整のデータを示しています。

マンパワーグループ雇用予測調査は四半期ごとにマンパワーグループが行っている雇用意欲を示す指標です。

2018年第4四半期のマンパワーグループ雇用予測調査は、44カ国・地域における59,000を超える組織を対象とした聞き取り調査をもとに実施されました*。調査にあたっては、すべての回答者に、「2018年10月から12月の貴社または貴機関の雇用計画は、今期と比べてどのように変化しますか?」という質問をしています。

マンパワーグループが行った第4四半期の雇用予測調査によると、44カ国・地域中43カ国・地域で雇用増加が見込まれます。しかし、雇用活動が著しく活発化する兆しはほとんど見られません。前四半期比では全体の雇用意欲はほぼ横ばいで、大半の雇用主は依然として回復力はあるものの、世界的に起きている取引先の再編成と継続する関税交渉に伴う厳しい状況を背景に、控えめな雇用活動に甘んじているようです。

前四半期比では、44カ国・地域中22カ国・地域で雇用意欲が改善し、14カ国・地域で減少、8カ国・地域で変化なしとなっています。前年同期比で見ると、23カ国・地域で雇用予測が改善し、13カ国・地域で悪化、7カ国・地域で変化なしとなっています**。雇用意欲が最も高いのは、日本、台湾、米国、ルーマニアおよびスロベニアです。一方最も低いのはスイス、アルゼンチン、フランス、イタリアです。

北米・中南米地域では、10カ国すべてで程度の差こそあれプラスの雇用予測を示しています。前四半期比では、8カ国で純雇用予測が増加し、減少しているのは2カ国のみとなっています。前年同期比では、6カ国で雇用意欲が改善し、3カ国では減少しています。この地域で最も高い雇用意欲を示しているのは米国、カナダ、メキシコです。一方、雇用意欲が最も低いのはアルゼンチンとパナマです。

ヨーロッパ・中東・アフリカ(EMEA)地域では、26カ国中25カ国で、純雇用予測はプラスとなっています。前四半期比では11カ国で増加しているものの、9カ国で減少しています。前年同期比では、13カ国で増加し、7カ国で減少しています。この地域で来四半期の雇用意欲が最も高いのはルーマニアとスロベニアです。一方、この地域で雇用意欲が最も低いのはスイスで、調査に参加した44カ国・地域の中で唯一のマイナス予測となっています。

アジア・太平洋地域では、来四半期は8カ国・地域すべてにおいて雇用の増加が見込まれます。前四半期比で純雇用予測がプラスとなるのは3カ国・地域で、3カ国・地域でマイナスとなっています。前年同期比では、4カ国・地域でプラス、3カ国・地域でマイナスとなっています。この地域で雇用意欲が最も高いのは日本で、世界的に見ても最も高い雇用意欲が見込まれます。中国では雇用の増加が見込まれるものの、この地域で最も低い雇用意欲となっています。

今期の調査対象44カ国・地域の個別の調査結果の全文、および地域・国際比較は、

www.manpowergroup.com/meos

をご覧ください。

今回のマンパワーグループ雇用予測調査は2018年12月11日の発表予定で、2019年第1四半期の雇用予測を報告します。

※ 季節調整後のデータがある場合は、それに基づいた分析を行っています。クロアチアとポルトガルのデータは現時点では季節調整が適用されていません。

※※ 前年同期比較ができるのは43カ国・地域のみとなります。クロアチアは前四半期から調査に参加したため、前年同期の比較データがありません。

この調査について

マンパワーグループ雇用予測調査は、来四半期における従業員数の増減について、雇用主の意向を調べるために四半期ごとに実施されています。

マンパワーグループが行うこの総合雇用予測調査は、55年以上の歴史を持ち、世界で最も信頼性の高い雇用予測調査に数えられます。マンパワーグループ雇用予測調査の成功は、以下のようなさまざまな要素に裏打ちされています。

独自性 規模、範囲、歴史、および明確に焦点を絞っているという点で、他に類を見ない調査です。

予測 マンパワーグループ雇用予測調査は世界で最も広範囲にわたる事前調査で、雇用主を対象として来四半期における雇用意欲を調査するものです。これに対して、他の調査や研究は、過去のトレンドのデータを報告することを主眼としています。

独立性 調査の実施にあたっては、すべての対象国・地域の代表的な雇用主から回答を集めます。調査対象組織は、マンパワーグループの顧客基盤とは無関係です。

信頼性 本調査では、世界44カ国・地域の59,000を超える公的機関・民間企業への聞き取り調査をもとに、各四半期の雇用動向を予測しています。このようにして回答を集めることで、各業種や地域の動向を分析し、より詳細な情報を提供することが可能になっています。

定点観測 本調査は55年以上にわたり、次のような一定の質問で、各項目のあらゆる情報を提供しています。

2018年第4四半期の調査にあたっては、全世界の調査対象組織に、「2018年10月から12月の貴社または貴機関の雇用計画は、今期と比べてどのように変化しますか？」という共通の質問をしています。

調査手法

マンパワーグループ雇用予測調査の実施にあたっては、市場調査の最高水準を満たす信頼性の高い手法が用いられています。本調査は、各国の経済状況を反映するように構成されています。国・地域・グローバルの各データの誤差は、±3.9%の範囲に収まっています。

純雇用予測

本調査では、「純雇用予測」という用語を使っています。これは、来四半期に「増員する」と回答した企業の割合(%)から、「減員する」と回答した企業の割合(%)を引いた値です。こうして算出した数値が純雇用予測となります。特に注意書きがない限り、最低17四半期分のデータの蓄積がある国・地域の純雇用予測は、季節調整後の値で示されています。

ポルトガルとクロアチアを除き、すべての調査対象国のデータには、季節調整が適用されています。マンパワーグループでは、データをさらに蓄積し、将来的にはポルトガルについても季節調整を適用する予定です。なお、2008年第2四半期以降は、データの季節調整にTRAMO-SEATS法を採用しています。

マンパワーグループについて

マンパワーグループ(NYSE:MAN)は、ワークフォースソリューションを提供する世界有数の企業であり、組織を成功に導く人材の確保、評価、育成、管理に関わるサービスを提供することで、急速に変化する働く世界の組織変革を支援しています。数百万もの人材に有意義で持続可能な仕事を見出すことで、幅広い業界や業種に優れた人材を紹介。毎年何十万もの組織のために革新的なソリューションを提案しています。マンパワーグループブランドである Manpower®、Experis®、Right Management®、ManpowerGroup® Solutions を通じて、70年近くにわたり、世界80の国と地域における求職者と顧客に価値あるサービスを提供しています。2018年には「世界で最も倫理的な企業」の1社に選出されて9年目となったほか、フォーチュン誌でも「世界で最も賞賛される企業」の1社に選ばれてから16年目となり、業界で最も信頼され賞賛されるブランドであることが改めて認められました。働く世界の未来を活性化するマンパワーグループの活動については、www.manpowergroup.com をご覧ください。

日本法人について

1948年米国で誕生したスタッフィングビジネスのリーディングカンパニーであるマンパワーグループの100%出資の日本法人で、1966年に設立された日本で最初の人材派遣会社です。“マンパワー”は人材派遣の代名詞として広く急速に認知され、常に業界のパイオニアとしてサービスシステムの構築や、クオリティマネジメントの重視など先駆者的役割を果たしてまいりました。現在では、労働者派遣事業に加え、有料職業紹介事業、再就職支援事業、アウトソーシング事業、ITソリューションサービス事業、コンサルティング事業など、総合人材サービス会社として全国で幅広いサービスを展開しています。

ホームページURL: www.manpowergroup.jp

所在地: 〒220-8136

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー 36F

代表者: 代表取締役社長 池田 匡弥

資本金: 40億円

設立年月日: 1966年11月30日

事業内容: 総合人材サービス全般

- ・労働者派遣事業
- ・有料職業紹介事業
- ・再就職支援事業
- ・アウトソーシング事業
- ・ITソリューションサービス事業
- ・コンサルティング事業

登録者数: 53万5,100人(2018年3月現在)

マンパワーグループ株式会社
〒220-8136
神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー 36F
www.manpowergroup.jp

©2018 ManpowerGroup. All rights reserved.